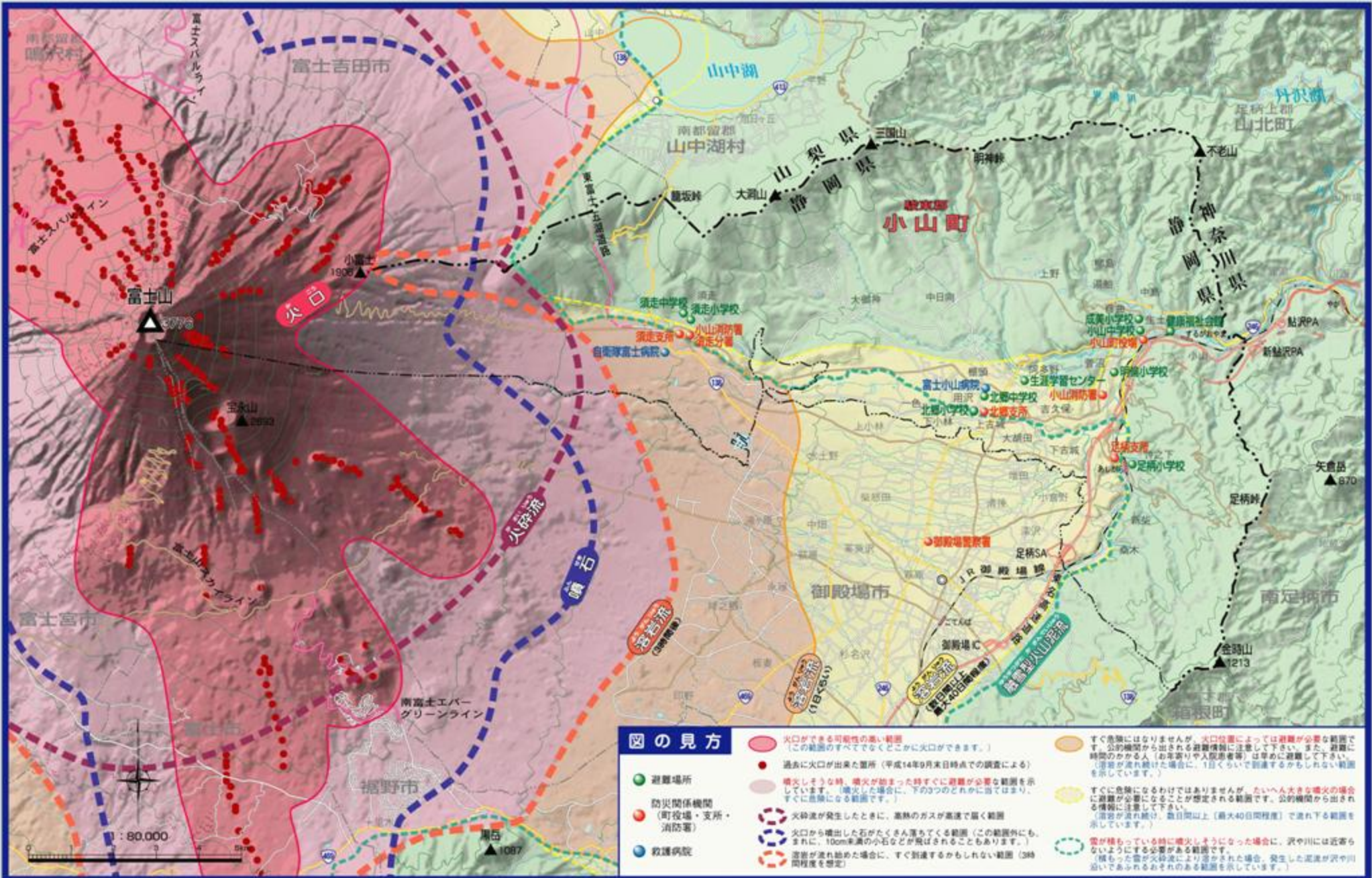
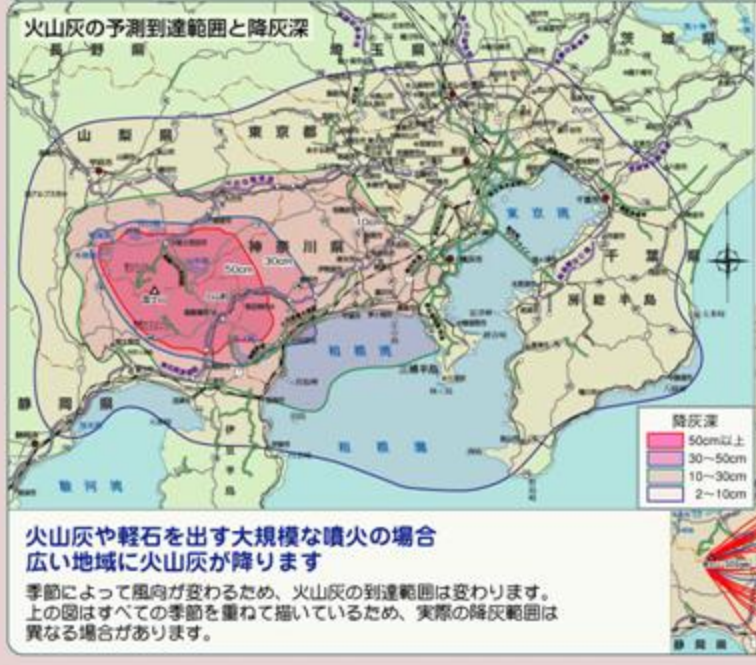


小山町富士山火山防災マップ ~溶岩流・噴石・火砕流・融雪型火山泥流~

この図は仮に富士山が噴出した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと考えられる範囲を全て重ねて描いたものです。全ての方角に同時に発生することを意味するものではありません。また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。



降灰マップ



降灰があったら...

- 灰を吸わないようにするためマスクやゴーグルを着用しましょう。
- 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ってくることもあるので、やむを得ず外に出る時はヘルメットや防災ずきんをかぶりましょう。
- 家は窓を閉めて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、雨が降っているとワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。

土石流・火山泥流マップ



気象庁が発表する火山情報

緊急火山情報...生命、身体に関わる火山活動が発生した場合、あるいはその恐れがある場合に随時発表されます。市町村の指示に従い速やかに避難範囲からの避難が必要です。

臨時火山情報...火山活動に異常が発生し、注意が必要となる場合に随時発表されます。登山は自粛もしくは中止する必要があります。また噴火の可能性が高まったとされる情報が発表された場合は観光の取りやめや一部の方は避難が必要となります。

火山観測情報...火山活動に変化があった場合、あるいは緊急火山情報、臨時火山情報を補う場合などに発表されます。特段の対応は要りませんが、火山活動の状況を理解し、その後発表される火山情報に注意する必要があります。

避難する場合は以下に注意しましょう

■忘れてませんか?

- 1 戸締り、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- 2 貴重品は忘れずに持参しましょう。
- 3 非常持ち出し品を確認しましょう。
- 4 外出中の家族のために、避難先を書いたメモを残しましょう。

■避難する場合は...

- 1 町役場や消防団などの指示に従い、落ちついて行動しましょう。
- 2 お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。
- 3 小石が降ってくることもあるのでヘルメットなどで頭を守りましょう。また灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。
- 4 くぼ地には有毒ガスがたまりやすいので、近づかないようにしましょう。

■避難場所では...

- 1 人数を確認し、逃げ遅れた人がいないか確認しましょう。
- 2 お互いに助け合いましょう。
- 3 ラジオやテレビ、防災無線などの情報に注意しましょう。

ヘルメット、ゴーグル、マスク、リュック、手袋、長袖の上着、長ズボン、運動靴

家族に安否を知らせるために...

避難施設・救護病院と連絡先

避難施設名	電話番号
小山中学校	0550-76-0154
成美小学校	0550-76-0063
明徳小学校	0550-76-0064
定禎小学校	0550-76-0596
北郷中学校	0550-78-0514
北郷小学校	0550-78-0520
須走中学校	0550-75-2004
須走小学校	0550-75-2730
健康福祉会館	0550-76-6666
生涯学習センター	0550-76-5700
救護病院名	電話番号
富士小山病院	0550-78-1200
自衛隊富士病院	0550-75-2311

防災機関と連絡先

防災機関名	電話番号
小山町役場(代表)	0550-76-1111
小山町役場生活環境課	0550-76-6111
小山消防署	0550-76-0119
小山消防署須走分署	0550-75-2001
須走消防署	0550-84-0110

本バージョンマップに関する問合せ先
 小山町役場生活環境課
 TEL 0550-76-6111
 FAX 0550-76-3050

噴火しそうな時、噴火が始まった時には?

気象庁が発表する火山情報に注意しましょう。

デマやうわさに惑わされないようにしましょう。

テレビやラジオのニュース、新聞、町の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。

富士山ハザードマップを作成した目的

■小山町域は、宝永4年(1707)の富士山大噴火の際に、噴石、火山灰による大きな被害(1~3mの降灰)を受けました。その後長く続く復興への苦難は、今に語り継がれています。このマップはそうした過去を身近に感じている町民の皆さんに、富士山の火山活動をよく理解していただくために作成しました。

■富士山は、いまから300年前に噴火した後、現在まで静かな状態が続いています。しかし、地下深くでは今もマグマが活動している活火山です。そのため万が一噴火しそうな時や噴火が始まったりした時に備えて、皆さんが自らの安全を確保するためにどのような知識を学び、どのような行動をすればよいかを知っていただくために、このマップを役立ててください。

■なお、富士山がすぐ噴火が起るような兆候は、現時点(平成16年)にはありません。

■このマップは一定の条件に基づいて推定された影響範囲や被害の程度を表したものであり、実際に噴火した場合はこのマップに示された内容と異なる部分が出てくる場合もあります。

■富士山では過去さまざまな規模や種類の噴火が起きており、噴火の場所も山頂だけに限らず山腹にも数多くの火口が分布しています。このような富士山の噴火の特徴をこのマップから学び、どのような現象がどこまでやってくるのかを十分理解した上で、的確な防災行動がとれるよう心がけてください。

富士山のめぐみ

世界に知られ、日本のシンボルである富士山。人々は、富士山から有形、無形の様々な恵みを受けています。富士山頂を町域とする小山町に暮らす私たちは、富士山が活火山であっても、その火山災害の被害を最小限にとどめ、富士山と共生できることを誇りにしたい。

美しい富士山にあこがれて

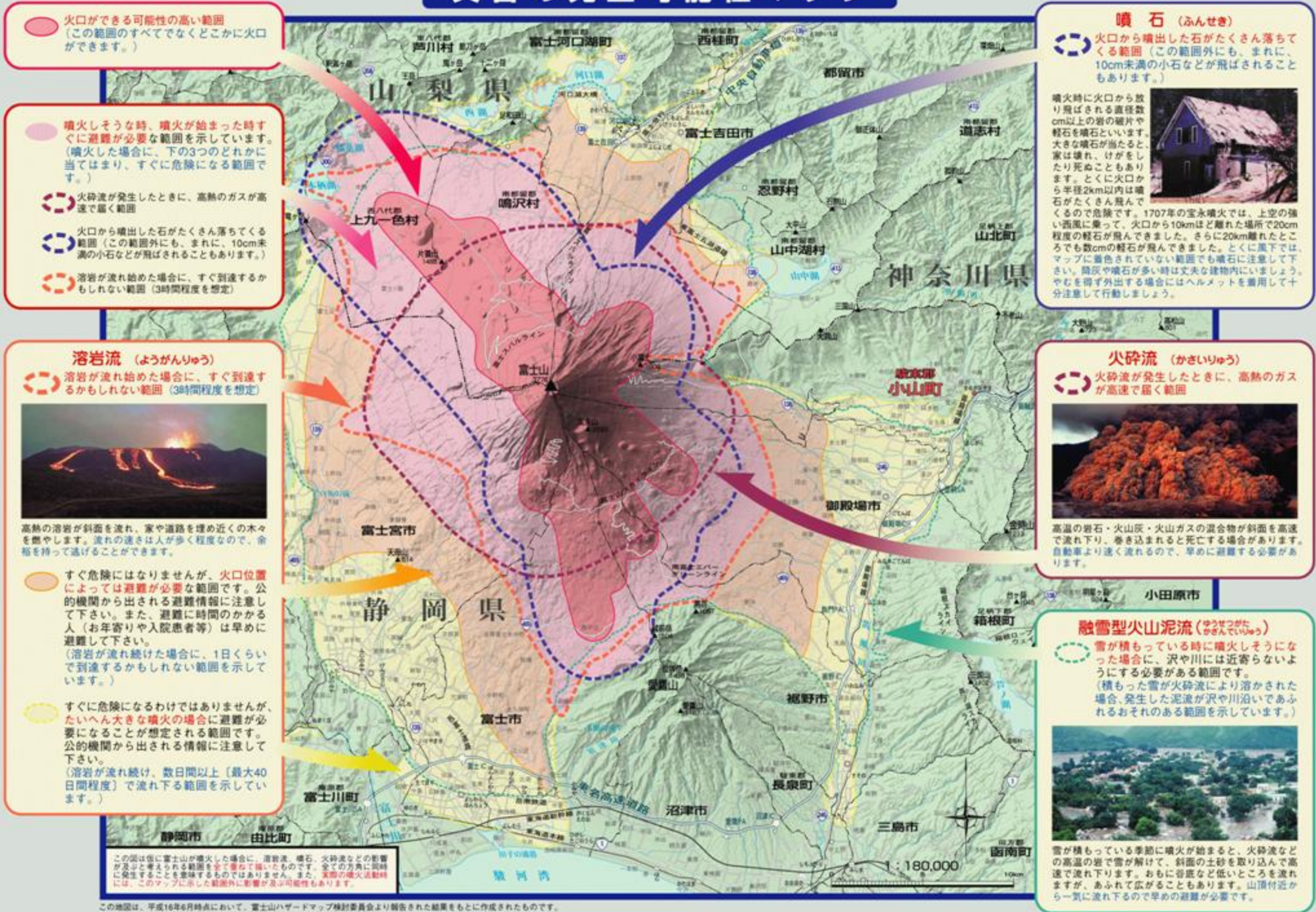
富士山は、太古よりその崇高な美しさにより、信仰の対象として崇められてきました。江戸時代には、富士講の信者が数多く参詣のために登山しています。また、山姥は野鳥の宝庫で、昭和9年6月、日本で初めての探鳥会(日本野鳥の会)が須走の地で催されています。現在、富士の姿にあこがれて海外からも多くの人々が訪れています。須走登山口では、春、夏、秋、冬それぞれの季節に多くの観光客が富士山の豊かな自然を満喫しています。また、多くの事業者が町内に進出しているのも、富士山の存在を否定できません。そして、何よりも私たちの心のよりどころとして存在する、かけがえのない富士山です。

豊富な湧き水が暮らしを豊かに

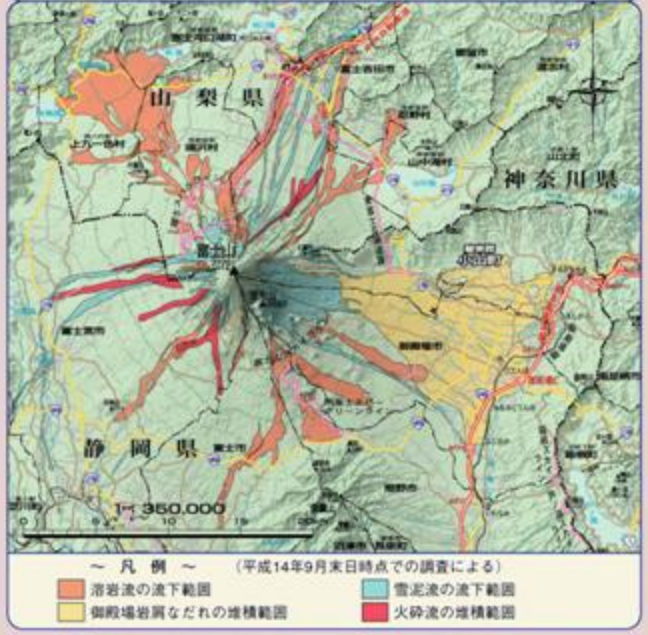
富士山の麓には数多くの場所で豊富でしかも清冽な水が湧き出ています。私たちは、その水の恵みを得て、飲料水、農業用水、工業用水として、米作りや、山菜、水菜の栽培、飲料製品などに利用しています。安心しておいしい水が飲める、これこそ富士山からの恵みといえます。



災害の発生可能性マップ



過去3,200年間の主な現象



どのような現象が起こる!? どのような注意が必要!?

溶岩流

溶岩流は、一般的に速度が速く徒歩でも逃げることが可能です。落ちる範囲は、事前に避難してください。

噴石

噴石の多くは、火口から2キロメートル程度以内で落下します。しかし、小石は広範囲に飛ぶ可能性があるため、富士山に近づかないようにしましょう。

火山ガス(かざんがす)

火山ガスはマグマに溶け込んでいたガス成分が気体となって噴き出さるもので、二酸化炭素などの有毒な成分を含むことがあります。火口などのガスが出ている周辺や窪地などのガスがたまりやすいと思われる場所には近づかないなどの注意が必要です。

火砕流・火砕サージ

火砕流・火砕サージは、高速(時速100キロメートル以上)で下流するため発生してから避難は困難です。噴火の危険性が高い状況になったら、火山情報などに十分注意して速やかに避難範囲の外に避難してください。火山に関する情報が出たら入山しないでください。

降灰

融かしたマグマが空高く吹き上げられ、風に乗りながら落ちてきます。火口の近くでは厚く積もり、遠くにゆきながら降り積もります。外出を控え車の運転には注意しましょう。

融雪型火山泥流

融雪による火山泥流は、高速(時速60キロメートル程度)で流れるため、速やかな避難が必要です。河川に沿って流れるので、噴火の危険性が高い状況になったら火山情報などに十分注意し、できるだけ早く川筋から離れてください。